



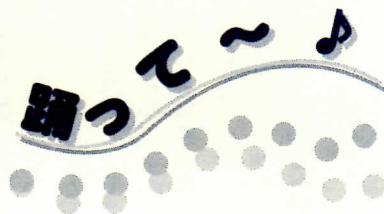
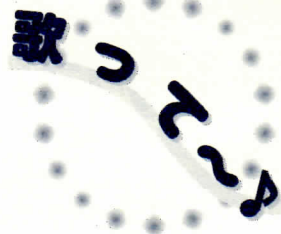
おちほ

第50号 平成16年10月10日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

★ この願い、どうか 星空へとどきますように・・・ ★



— 2004 —
七夕フェスティバル



今年の七夕、彼方星空からこの落穂寮へとやってきたのは3人。なんとも美しい?!織姫と、織姫より少々おチビな彦星、そして元氣一杯の星星人でした。ステージ脇には体育館の天井に迄届く程長い笹の葉。そこには七夕フェスティバルの前に寮生さんに書いて頂いた短冊や、七夕飾りが揺れていました。大好きな食べ物をびっしりと書いてあるもの、「スリ傷が早くなおりますように。」と書いてあるもの、「がんばる」とただ一言書いてあるもの（後日、「何を頑張るのですか?」と尋ねると、今年の目標「食事マナーを身につけることを。」がんばるののだとおっしゃったそうです。中には絵を描いて下さった寮生さんもおられました。

七夕フェスティバルでは、お芝居の中に歌・踊り・手遊びも織り混ぜたのですが、寮生さんは皆、大ノリ!歌に合わせて体を大きく揺らしたり、飛び跳ねたり、はたまた踊りの時にはステージの織姫・彦星・星星人の見様見真似で元氣一杯に踊って下さったりと、そんな寮生さんの姿をそばで見ている職員も、とても嬉しい気持ちになりました。

さてさて、来年の七夕、この落穂寮へ星空から舞い降りてくるのはどんな方達なのでしょう。その日迄の一年間、寮生さんが笑顔溢れる日を送ってくださることを職員一同はお祈り致します☆

昔々今ふ



理事 長 増 田 正 司

野瀬君のご機嫌なにこに顔を見ると僕もとてもうれしくなる。なぜか彼の不機嫌が長引いた。

とても大好きなお爺さんが顔をみせないことが原因のようだ。家のごたごたに怒ってお婆さんと家を出てしまったようだ。孫が不びんだ手元において世話したいのに落穂察に預けた、元気な姿を見にいのが自分の務めときめていた。

野瀬君のご機嫌の回復を願ひ、寮から自動車で2時間余走った出先でお爺さん夫婦に会い、野瀬君のため家に戻り皆んな仲良く暮らしてほしいと話する。孫のためには異論はないが家の中の話になると堂々めぐりし、お互いもどかしい思いの2時間がすぎた。

何時までも仮住いできない二・三日中に家に戻ると老妻が話された、面会を約してわかれる。老夫妻が帰宅の知らせで訪ねる。相変わらずブロッコ積みみの旧屋に住んでいる。新家の客間で婿さん、お爺さんと僕と話をするが陰悪だ。わが子、孫のため和やかな家に戻ってほしい、双方異存はない。所帯を一緒にしたくない年寄りの気持ちもわかる。地域農協の組合長に選ばれ

顔役になった婿さんの面子世間体では、農具小屋のような旧屋に年寄りを住わせては地域の信頼信望もゆらいでしまう。意地をすて新家の所帯で生活し、旧屋は仕事部屋に使えば良い、我を何時までではってはいかん、老いて子にしたがえと昔から言われている。「婿さんの言い分を聞いて言われるとおりにしなさい」僕の最後の言葉だ。一瞬、お爺さんの顔色が変わり、自分の理解者と思っていた人が心がわりしたのかと「うらみ」の一言二言のこされ部屋を立去った、お婆さんが悲しそうな目で頭を下げられた、バツの悪い重くるしい空気につつまれた。

結局円満な解決ができず、後味の悪い思いで退散した。僕はいらざる「お節介」をしたのだろうか。子の悩みが親の悩みに連動し、寮の職務にも関係してくることを何時も考えさせられたのである。

後に、野瀬君帰省中に不慮の事故で悲しいことに亡くなった。もつともつと手をつくして円満に仲直りさせられたらよかった。残念だ。いまは天界にいる野瀬君のとわの平安を心からお祈りしよう。

(二〇〇四年九月十五日記す)

昔々今ふ

ネズミ色の生活から

寮長 山下陽一

服役

今から六、七年前になるでしようか、朝日新聞の歌壇にアメリカの刑務所に収監されている鹿児島出身の服役囚の投稿がありました。殺人罪を犯し出所の見込みのない、無期懲役の服役囚でした。

彼の歌集が二〇〇四年四月に出版（幻冬社・『隼人』）されました。ペンネームを郷隼人としています。

紙上では以前から注目していたのですが、まとめたものを読むと更に感慨が増してきました。

私は決して現在の福祉施設の入所とアメリカの服役と同一視するつもりはありませんが、体験の共通性があるものとして少し触れたいと思います。

母をしのぶ

母さん「すぐ帰るから待ってて」と

告げて渡米し三十年経ちぬ

どのような経過があり異国で

殺人罪を犯したのかわかりません。受刑者としてほぼ二十年の服役生活を続けてきているのですが、異郷にあつて母を偲ぶ姿が凝縮されています。ありえない出所を信じている母が不憫だとも歌っています。

古い母が独力で書きし封筒の

歪んだ英字に感極まりぬ

罪を犯した子へ母は十年も手紙をくれなかつたその母が、たどたどしいローマ字の宛名で手紙をよせてくれました。その感慨は察するに余りあるといったところでしょうか。

家に帰りたい

新年の抱負は何かと問われるれば

出所し日本へ帰りたしと告げん

落穂寮で生活している人たちにとどまらず、入所施設を利用している人たちの一番したいことはと聞えば、ほとんどの人たちが「お家へ帰りたい」と答えるでしょう。

家に帰りたい思いについて、入所施設は開所からこのことに変な時間と労力を費やしていません。施設は「脱走」というイメージを好しとせず、「無（断外（出））」として記録されています。

猫が好き

道端に捨てられていた生後間もない子猫がかわいそうで、自分の部屋に持ち帰り、かわいがっていても、職員に見つけられ、「捨ててこい！」といわれシブシブ置いてきた女子児童の様子が日誌に記されています。

獄扉のほんの隙間を往き来する

仔猫抱けば生命の温もり

服役囚たちは扉の中に訪れる生き物を飼うのがうまく虐めたりしない、と描かれてあります。郷里を離れた孤独な生活の癒しとなっています。

ねずみ色の世界

色の無い部屋が明るくなりました

ポトルに一輪薊（あざみ）を活けて

たとえ独房であろうと、生活するうえに欠かせないのが自然の持つ色彩です。これによりどれほど心が安らぐことか計り知れません。そんな物を房内に持ち込むと、発見され次第没収されるのですが、厳しい監視の中あの手この手を使い持ち込みを工夫します。一人ぼっちのとき自然や草花に触れてみたいという欲望は何に根ざしているのでしょうか。

モノと刺激に溢れている今、日常にそつとあるものの大切さに心のセンサーが働かなくなっている私たちの生活を思い返すとき、この異国の獄に繋がれ母を偲び、自然や小さな生命に癒しと喜びを捉えることができる。「心」こそ貴重なもののように思えるのです。

(二〇〇四・九・一三)

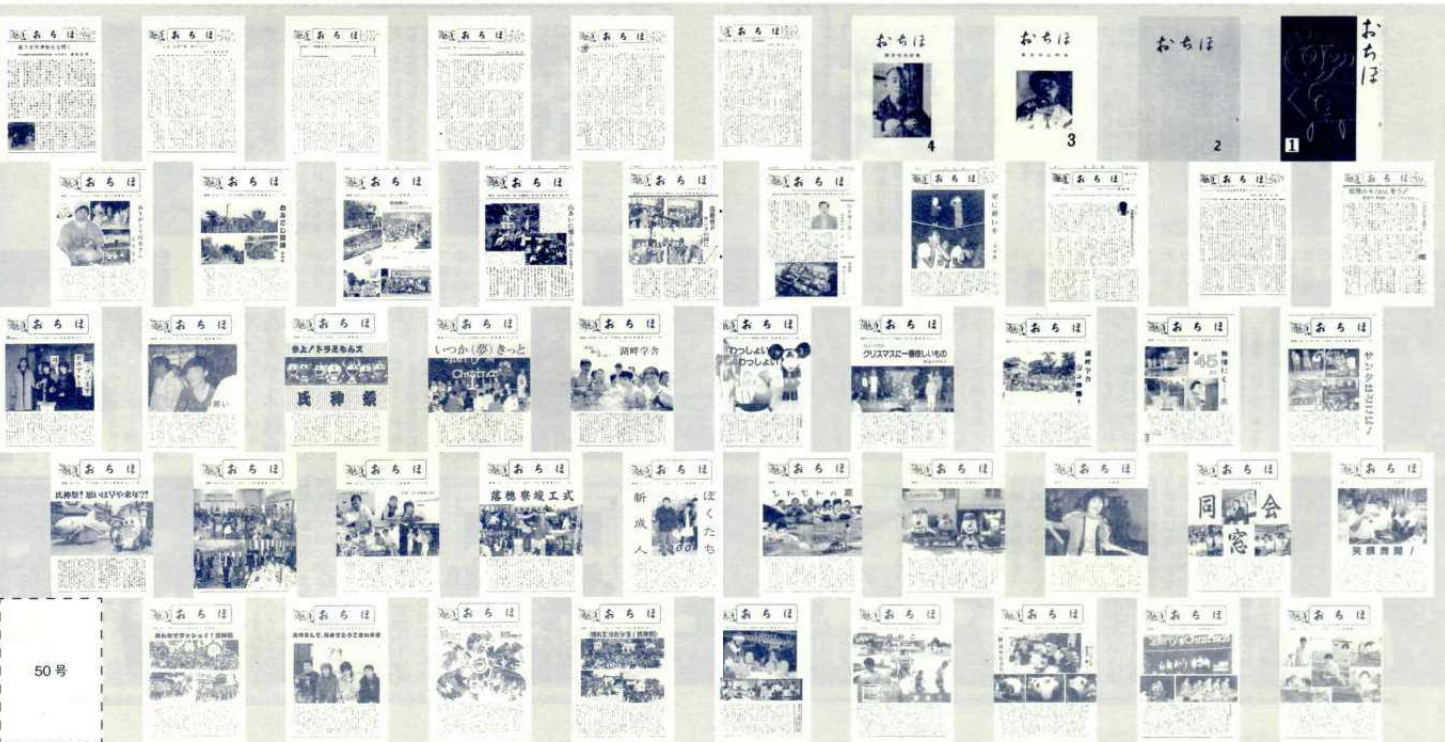
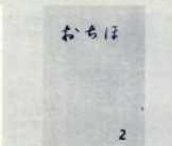
祝・50号

～笑顔をお届け続けて～

年に三回、落穂での行事や寮生さんの様子などを皆さんにお伝えしているこの広報「おちほ」は、今年でめでたく五十号を迎えることになりました。

落穂寮開寮から五十四年、広報「おちほ」も落穂寮の歴史と共に歩み続けています。その軌跡は写真で見たいだけでなく、文字でも見たいとわかりました。過去にさかたの長も第一号発行が昭和三十八年、二回発行されるのみで、しかし平成六年から年に三回の発行となり、現在のように行事の様子をタイムリーにお伝えすることができるようになりました。ここからは「おちほ」ができるまでを紹介したいと思います。まずは編集委員会の六名が集まり、ページ毎に担当を決め、期日までに原稿を仕上げます。そして再び集まり、その行事の写真を見てベストショットをさがします。その後写真を拡大、縮小し、文字とのバランスを見ながら貼付けるので、こうして文章にすると簡単な作業のように思えますが、実は作業のほとんどが時間のかかる作業なんです。仕事後、午後九時から始め、終わって時を見るまで一時間以上かかることがよくあります。

編集を終わってみて、こういとは、「おちほ」は思い出のアルバムみたいな号一ページにその時の出来事、その時の寮生さんの姿があるの。私にとってはそんな存在な集まりです。きつと私以外の編集委員も、そう思っているのではないのでしょうか。たくさんの方の思いを込めて、広報「おちほ」を発行していきたいと思っております。これからもよろしくお願ひします。



地蔵盆

みんなの分まで お願いします

毎年、落穂寮では地蔵盆を行って
います。

まずは地蔵洗い。地蔵盆の前日に
地蔵（ちなみに落穂寮の地蔵は事務
所前にあります。）そしてお供え物
（保護者の方々からいただいたいま
す。）を用意します。そして全寮生
が事務所前に集合し、お祈りをして
います。

しかし今年、地蔵盆は台風の影響
で雨が降ってしまいました。残念な
がら今年中止しようかと思いまし

▼お地蔵さんの前にて。



◀しっかりと祈りました。



たが、行ける人だけでもと思い、男
子棟、女子棟それぞれ代表の寮生さ
んにお願いしました。雨の中、大変
でしたが、代表の寮生さんにはがん
ばってもらいました。

今年、全員でできませんでしたが、
しっかりと祈りしてもらいまし
た。今年一年、元気にすごしてい
ますように：

▶職員（寮長）もしました。



納涼祭

お祭りよりも 花火が主役!?

今年の納涼祭は雨のため、珍し
く食堂での開催となりました。

こじんまりとした納涼祭だった
ように思うのですが、広い運動場
では自分でおかわりなどいくの
が難しい方でも、近くにあること
で自分で取りに行くことが出来
て、一時ではあります自立に近
づけていたように思います。

焼きそばを気に入って焼きそば
かりおかわりする人や、去年はな
かったかき氷に興味をもたれる方
とそれぞれでしたが、減多にない



選択しての食事を楽しまれていま
した。
江州音頭はなかったものの、提
灯はつるされ、雰囲気もまんま
でたまにはこのような納涼祭も悪
くはないなあと感じました。
最後には、打ち上げ花火を鑑賞
し、いつもはウロウロとぼらつか
れる寮生さんも、今日ばかりは花
火の美しさに見入っておられま
した。



台風のをせいであ...

八月一日、男子棟飯盒炊さんがありました。場所は土山の田村川で...と書きたかったのですが、前日に台風が上陸した為、当日は天気も持ち直したものの、川沿いは増水して危険という事で、体育館横でする事になりました。(女子棟の飯盒炊さんの時は晴れてたのに、クヤシーっ)

文句を書いても仕方ないので、続きを。午前中に職員の方は準備を、寮生さん達は川遊びがなくなった分、プールに入ってもらいました。

そして昼食。メニューは焼き肉とおにぎりです。(おにぎりは職員

▼川の代わりにプールにて



◀もう少しで焼けるよー。



員手作りです。)プールで体を動かした寮生さんはお腹も空いていたので、おいしそうにパクパク食べていました。

昼食が終わって、腹ごなしに寮生さんは再びプールへ。職員の方はおやつのスイカの準備をしました。ちなみにスイカは保護者の方の畑のものを頂きました。(ありがとうございます。)

おやつのスイカもあつという間になくなりました。野外での食事は気持ち良いのか、どの寮生さんもいい顔をしていました。台風で寮外には行けませんでしたが、楽しい一日を過ごしました。

女性達の楽しい水遊び



七月二十二日に、毎年恒例の飯盒炊さんへと行ってきました。今年は一昨年に行ったことのある甲賀町の高間水辺公園へ行きました。

ここには、きれいに整備された小川が流れており、真夏の良いお天気には持ってこいの場所でした。十分暑いことも想定しており、水着を忘れることなく用意していったため、着いてからご飯が出来るまでに入る方や、昼食後にゆっくりと入られる方とそれぞれに有効に時間を使って、水遊びを



楽しんでおられました。お肉や野菜をモリモリ食べられ、思い思いにおかわりもされ、日頃みんなとは少し距離を置かれている寮生さんもみんなの輪の中に交ざっておいしくいただきました。

しかし、焼き場にいる職員はというと：日照りと火とのダブルパンチで汗をたくさんかきながら必死の形相で焼いていました。場所は同じ所へ行っても、毎年違った表情を見せてもらっているように感じます。来年も、晴れて違った表情を見せてもらいたいです。



石部中学交流会

毎年恒例となりました石部中学校との交流会が今年も六月二十三日に行われました。取り組み内容も、関わる寮生さんも殆ど変わらないのですが、来下される中学生の方は初めてのなので、関わる寮生さんも職員もドキドキ。しかし今年の生徒さんは例年以上に積極的で面白く、寮生さんも職員もとても楽しんで紹介できました。そのごく一部の感想を紹介します。第二回目は更にパワーアップされた交流を期待しています。

先日の交流会では、大変お世話になりました。最初は、カメのグループ担当でした。最初、寮生さんに何をされるかわかったけど、実際は違いました。みんな色々な個性があり、そしてやさしくてほくもすごく安心しました。そして心の中で「何でもほくは不安がっていたのか」って思うくらいやさしかったです。そしてカメグループのみなさんとの散歩の時間が良かったです。そして僕を指名した人がいました。ほくはかなりうれしかったです。そして一

対面式のあとの交流にて!!



緒に歩いていっているうちにほくの方がつかれてきました。そのときに「運動はだいたいやなー」とおもいました。そして終りにジュースとおかしをもらいました。この他にも色々な事を知り、色々な事を教えてもらいました。本当にありがとうございました。秋がすごく楽しみです。また、カメグループのままならカメグループのみなさんよろしく御願います。秋もまたよろしくお願います。(藤田 直紀)



全員で「ハイ チーズ」

るうちになれてきました。散歩の最中で座ってしまった人がいた時はびっくりしました。その人はだいたいぶつかれていたので、とてもつかれたのに、落ちていた人のはあの時距離を毎日毎日歩いていたのはとてもいいことだと思えました。体力づくりにもなるのでいい事だと思えます。落穂寮の人はとても静かな人もいますし、とてもよくしゃ



機能訓練班のメンバーと!!

べる人など、いろいろな人がいたので楽しかったです。秋の交流会もよろしくお願います。(高田 麻維)

今日は、半日どうもありがとうございました。寮生さんの人達という感じが、浴室のそうじをして思ったことがありません。それは知的障害を持つ人でも、一つ一つゆつくりと、掃除をしたり、何かをいっしょけんめい話そうとしていて、私もその話をいっしょけんめい聞こうと思えました。この交流を通して、これからいろいろなことに役になっていきたいです。(吉田 奈月)

先日のふれあい交流会の時は、ありがとうございました。始めは寮生さんの意外な動作や行動にびっくりしたけど、一緒に浴室のそうじをしていて、なんとなく気持ちが通じ合えた気がします。一人一人、色々な特徴があり、その人の癖や好きな物、こだわりなど、知ることができました。今度秋にまた交流会があります。その時には、もっと交流を深めたいです。(門多 彩)

泉

▽最近日本が異常だと思いませんか? 気象も異常なら社会も異常な事象。特に、社会の中で一番小さな単位の家族関係に異常が起きています。社会的に一番弱い子供、乳幼児にとつては、世界中で唯一、無条件に絶対的な愛情を注いでくれる親に、生まれながらにして信頼を寄せているものだと思うのです。その信頼を糸も簡単に「ブツツン」と切ってしまう行為は私達の想像を絶するものではないでしょうか。これ以上の裏切り行為は有り得ないと言えます。

私達が日頃関わっている人達もまた、社会的弱者と言われている方々です。信頼して頂いているものとして、私達は決して裏切ることはないように、応えていかなければと思っています。

木言

聞こえる耳より聴く耳をもて
見える目でなく、見る目をつける。

意識のないものに、携わる資格はない。

私も生きているのだから。

葉の動き。枝の動き。根の動き。そして芽の動き。その先にある姿が、あなたがたには見えていますか。